

平成28年7月3日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

公 述 申 込 書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

1 公述しようとする事案

事案番号 平28第4001号

事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定

事案の申請者 宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2 公述しようとする者 ※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照

(ふりがな)

氏名

なほ いづる せいの ぶ

(郵便番号)

住所

職名

年齢

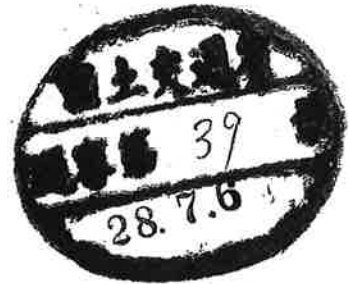
73 歳

3 事案に対する賛否

賛成

4 利害関係を説明する事項 ※利害関係人のみ記入 (注意事項③参照)

5 自宅、勤務先等の連絡先電話番号



私はゆいの杜5丁目に住む直井重信と申します。

今回、宇都宮市の進めるLRT事業に関する「軌道高度化実施計画」の公聴会に当たり、より暮らしやすく、安全、安心なまちづくりに不可欠なLRT整備事業に「賛成」の立場から意見を述べます。

私達の清原地区は、昔から農業が盛んな地区でありましたが、昭和40年代に東部地区で大規模な住宅団地の開発が行われ、多くの居住者が転入してきました。また、内陸型では国内最大級といわれる清原工業団地も造成されて、我が国を代表する多くの企業が進出して生産活動を展開しており、市の税収はもとより地域の雇用創出に多大な貢献をしております。

また、清原地区には4つの小学校、1中学校のほか、栃木県立清陵高校、海星女子学院、また、4年制大学である作新学院大学もあり、地区内外から多くの若者が集うまちとなっております。

最近の清原地区の最も大きな動きとしては、テクノポリス地区の指定を受けた野高谷町・刈沼町を中心とした72ヘクタールの大規模な区画整理の開発が進んで、新たに多くの世帯が住み始め、人口が急速に増加しております。テクノポリスセンター地区は、現在は住居表示で「ゆいの杜1丁目～8丁目」となっているが、大型スーパーマーケット「かましん」「たいらや」「カスミ」をはじめ、ドラッグストア「ウェルシア」、スターバックス、ジョイフルなど、多くの店舗・飲食店の出店も続いています。また、この地区では、近隣の清原工業団地や隣接する芳賀町のホンダ技術研究所や関連企業に従事する人達が多く住み始めており、特に子育て世代、若者世代が増加して、今年3月末の人口は5,300人を突破して、3年前の1.7倍と急増しており、ゆいの杜の計画定住人口の13,000人に向かって力強く推移しており、活気あふれるまちとして発展しております。

このような状況から、全国的に少子化が進む中、ゆいの杜地区の学区である清原中央小学校の児童数も急激に増加しており、今後も継続して増加が見込まれることから、ここ数年で教室が不足する見通しとなり、宇都宮市では31年ぶりに、ゆいの杜地区内の公益施設用地に「新たに小学校の開校」を決定したところであります。

このように、私達の住む清原地区は産業・学術・農業・住居と多様な機能をあわせもつまちとして、その姿を変えながら着実に発展しております。

一方で、全国的に高齢化現象が進む中で清原地区も例外ではなく、清原地区の全人口 28,000 人に対し 65 才以上は 5,800 人と 21%を占め高齢化が着実に進んでおります。そして、この高齢者が、買い物や病院、趣味などで地区外に出かけるとき、何時までマイカーを使用できるか、不安は少なくありません。また、免許を持たない高齢者が利用できる公共交通は、JR バスのみでゆいの杜から、JR 駅まで 1 時間に 1 本で、所要時間は約 50 分を要し、料金は 700 円が現状であり、行動範囲が限りなく制限されています。

また、昨今は高齢者の交通事故が多発傾向にあり、アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故などが連日ニュースになっており、私達高齢者には他人事ではなく、現実的な課題としてとらえております。「自分の意志で自由に行動できる安全・安心な乗り物」として、公共交通(LRT)の果たす役割は、マイカーを運転できない交通弱者にとっては頼みの綱であります。

このような中、私達清原では地域振興協議会の公共交通特別委員会で早くから公共交通の円滑な導入について取り組んでおり、特に基幹公共交通を補完する地域内公共交通の整備を進めており、7 年前から宇都宮全市に先駆けて、清原台 1~6 丁目、光が丘を中心として「清原さきがけ号」を運行し、3 年前には板戸町地区で「デマンドタクシーのぞみ号」を運行しています。そして、来年 4 月から南部地区 4 町で「清原南部デマンド交通(仮称)」を計画しています。

今回の清原地区を横断する LRT 整備事業はテクノポリス地区や沿線の住民はもとより、地区内 7 か所の電停にアクセス可能となる清原地区の全住民にとって、市中心部へのアクセスの利便性が飛躍的に向上して、地区内のより便利で暮らしやすい生活環境の実現に向け、子供から高齢者まで、活力溢れる町づくりに向けて、LRT 事業の速やかな導入に期待感が日増しに高まっております。

更に、清原地区を通過する県道宇都宮・茂木線(通称柳田街道)の朝夕の交通渋滞は長年に亘り異常な状態で、経済活動や周辺的生活環境に大きな影響を与えています。

JR 駅から清原地区まで約 10km の区間の所要時間に 1 時間を要しており、通勤者や渋滞道路を通行する商活動者には、大変な苦痛と経済ロスを与えております。また、この渋滞の影響は周辺住民や学童の通学にも深刻な影響が出ております。

道場宿町では、朝夕に通勤車両が裏道に進入して軒先でトラブルになったり、ゆいの杜地区の学童は毎日交通渋滞の幹線道路を横断して通学しており、交通事故のリスクが高まっております。このようなことから、一刻も早いLRTの開通を望むものであります。

以上、申し述べたとおり、私たちは宇都宮市のLRT整備事業に賛成の立場であり、同事業は宇都宮市が進めるネットワーク型コンパクトシティの町づくりの根幹をなすものと理解しており、市の発展はもとより、清原地区のまちづくり、更なる発展には不可欠の事業であり、一日も早い運行開始を要望して、私の意見といたします。